

平成 27 年 1 月期

# 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 27 年 1 月 29 日  
横浜市健康福祉局健康安全課  
TEL045(671)2463  
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課  
TEL045(370)9237

## 今月のトピックス

- 1 インフルエンザ警報(警報発令基準値:定点あたり 30.00)が昨シーズンより 4 週早く発令されました。流行が継続しています。
- 1 伝染性紅斑の報告が多い状態が続いています。

## 全数把握の対象

### 【1 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	1 件	後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)	7 件
A 型肝炎	1 件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 件
デング熱	3 件	侵襲性肺炎球菌感染症	14 件
レジオネラ症	9 件	水痘(入院例に限る)	1 件
アメーバ赤痢	4 件	梅毒	3 件
急性脳炎	4 件	風しん	1 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5 件		

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 1 件(O157VT2)の報告がありました。感染原因や経路は不明です。
- 2 A 型肝炎: 1 件の報告がありました。国内での感染が推定されていますが感染経路等不明です。
- 3 デング熱: 海外感染例が 3 件(タイおよびインドネシアでの感染)報告されました。全国で、11 月以降国内感染例は報告されていません。
- 4 レジオネラ症: 肺炎型 7 件、ポンティアック型 2 件の報告がありました。これらの報告での関連性は現在までに確認されていません。各症例について引き続き感染経路等調査中です。
- 5 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 4 件の報告があり、すべて国内での感染で、明確な感染経路は不明でした。
- 6 急性脳炎: 4 件の報告がありました。そのうち 3 件(乳児(予防接種歴無し)、幼児(予防接種歴無し)および学童(予防接種歴不明))は迅速検査でインフルエンザ A 型陽性でした。残るもう 1 件は幼児で病原体検索中です。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 5 件の報告があり、4 件は 60 歳代~70 歳代で血清型は A 群(感染経路不明)、もう 1 件は 70 歳代で血清型は G 群(創傷からの感染)でした。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 3 件、AIDS 3 件、その他 1 件の報告がありました。すべて国内での感染で、うち 6 件は同性間性的接触、残る 1 件は性的接触による感染でした。
- 9 侵襲性髄膜炎菌感染症: 50 歳代の報告が 1 件ありました。患者は集団での生活はしておらず、周囲に他の患者は確認されませんでした。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症: 14 件の報告がありました。12 件は 60 歳代以上で、そのうち 3 件(1 件は 2 年前に接種、他は接種時期不明)で接種歴が確認できましたが、他は未接種か接種歴不明でした。2 件は乳幼児(9 か月、1 歳)で、それぞれワクチン接種歴が 3、4 回有りました。
- 11 水痘(入院例に限る): 90 歳代の届出が 1 件ありました。予防接種歴は不明でした。
- 12 梅毒: 早期顕症梅毒 期 2 件、無症候期 1 件の報告がありました。すべて国内での感染で、2 件は異性間性的接触、もう 1 件は同性間性的接触による感染でした。
- 13 風しん: 40 歳代男性の報告が 1 件ありました。ワクチン接種歴はありませんでした。

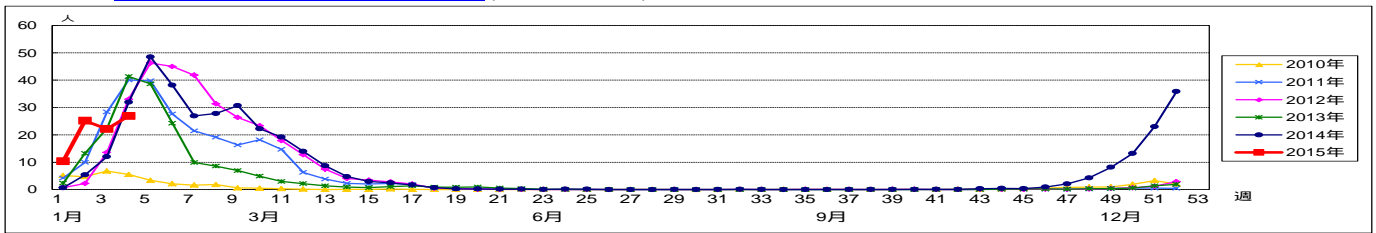
## 定点把握の対象

- 1 インフルエンザ: 2014 年第 52 週の定点あたりの患者報告数は、横浜市全体で 35.83 と、警報発令基準値 30.00 を上回りました。昨シーズンより 4 週早い警報発令です。年末年始を挟み、その後報告数は下がりましたが、第 4 週 26.89 と再び増加しました。増加の主体は 20 歳未満の患者で、学級閉鎖も再増加しています。第 4 週の迅速キット

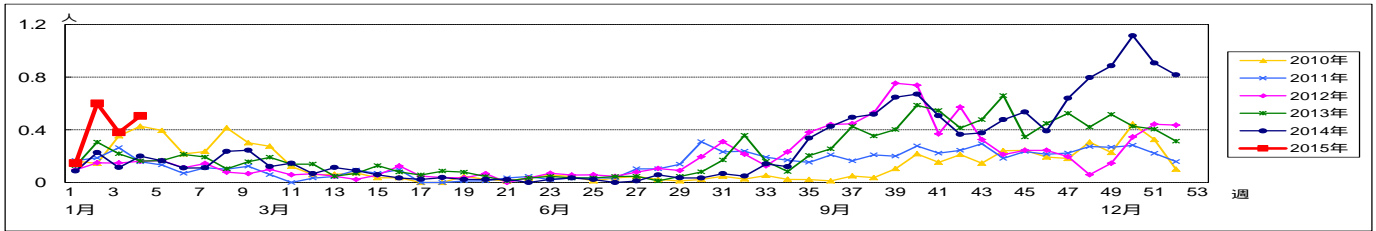
第 52 週	12 月 22 日 ~ 28 日
第 1 週	12 月 29 日 ~ 1 月 4 日
第 2 週	1 月 5 日 ~ 11 日
第 3 週	1 月 12 日 ~ 18 日
第 4 週	1 月 19 日 ~ 25 日

の結果はA型が98.3%で、今シーズンはほとんどB型の増加がみられていません。流行の主体はいままで同様 AH3 亜型(A 香港型)です。市内で検出された株では主な薬剤への耐性は確認されていません。予防にはワクチン接種だけでなく、手洗いや早期受診などの対策が重要です。

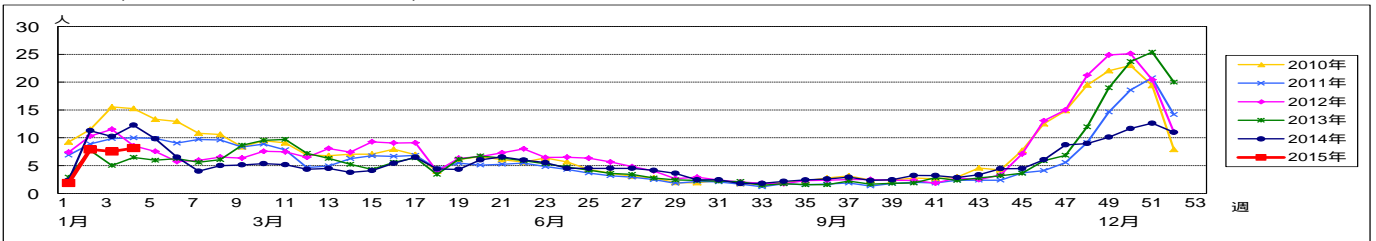
横浜市インフルエンザ臨時情報(衛生研究所)



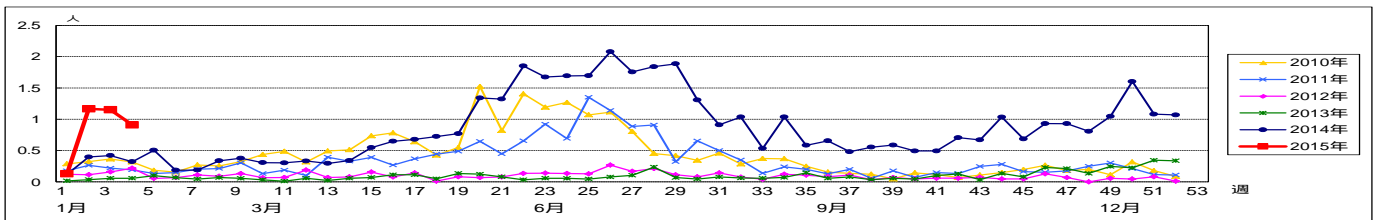
2 RSウイルス感染症: 第4週は市全体で定点あたり0.51と、今シーズンのピークである第50週1.11からは少なくなりましたが、例年よりやや多い傾向です。



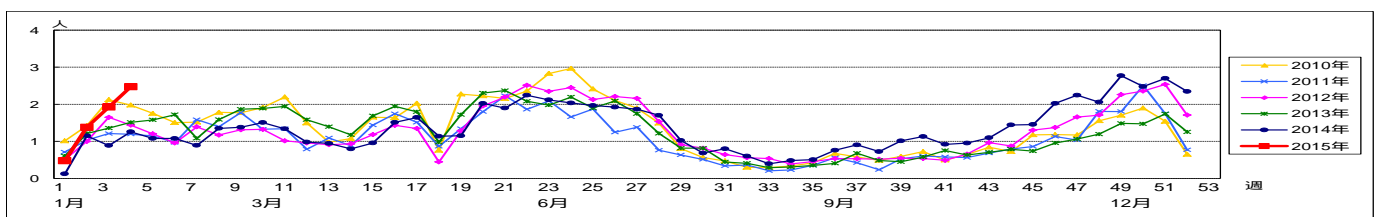
3 感染性胃腸炎: 今シーズンは例年の同時期に比べて報告数は少なく、第4週8.13で、区別にみても警報レベル(警報発令基準値20.00)の区はありません。



4 伝染性紅斑: 昨年8月後半に減少して以降下げ止まり、例年より多い水準で推移しています。



5 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 第4週は市全体で定点あたり2.47と増加傾向です。



6 性感染症: 12月は、性器クラミジア感染症は男性が27件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が3件です。尖圭コンジローマは男性10件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が9件、女性が0件でした。

7 基幹定点週報: マイコプラズマ肺炎は第52週0.67、第1週0.33、第2週1.00、第3週1.00、第4週0.50となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は、第52週0.00、第1週0.00、第2週0.00、第3週0.50、第4週0.25でした。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

8 基幹定点月報: 12月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症2件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>